

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	北海道	気温が下がり、出荷量は減少してくる。	<p>現状</p> <p>天候の影響もあり入荷数量は中々増えてこない状況。雨続きで小売り、プライダル、業務系の発注もやや鈍い状況。16日水曜からプライダル、お彼岸重要で動きが良くなるが、シルバーウィークを過ぎてからの需要は落ち着いてくる見込み。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 秋のプライダルシーズンに入るが、昨年は台風の影響で相場が中旬まで上がらない状況だった為、今期は2週目辺りから相場が出るを期待している。</p> <p>FAJ 9月に引き続きプライダル中心の販売となる見込み。</p> <p>東日本板橋花き 高冷地が終盤となり、暖地との切り替えとなり品薄感の品種等が出る。またプライダル需要で引き合い強くなるため高値推移。</p> <p>世田谷花き 高冷地産が残るが、暖地は先の台風の影響で出荷遅れ気味。</p> <p>第一花き</p>
	秋田	7月定植の抑制作型を強化しており、昨年よりも出荷量は増量する見込み。彼岸向けについては生育が前進していたが、10月分の出荷については、順調な出荷を見込む。	
	山形	10月出し作型の生育は、前進傾向にあったが、8月中旬以降の低温・日照不足傾向によりほぼ平年並みとなっている。品質は良好であり、病害虫の被害はほとんどない。	
	熊本	台風15号の影響により、一部産地で定植遅れなどが見られる。定植遅れがあった事で品種を晩生から中生に変更しており、年内出荷が昨年よりやや増加する見込み。10月の出荷については上旬ごろから徐々に始まり、下旬から数量が増加する予定。	
ストック	山形	<p>今年は8月中旬以降、低温となったため、発芽揃い、初期生育は概ね順調である。</p> <p>出荷始期は、花芽分化や発達が進んでいることから、前年よりやや早い9月中旬からとなった。</p> <p>出荷量は、播種日を数日遅らせた産地や9月が昨年に比べ低温・日照不足傾向であることから、前年の74%程度と見込まれる。</p> <p>病害虫はほとんどみられない。</p>	<p>現状</p> <p>出荷はほとんどなく、早いところで月末北海道よりスタートする見込み。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 昨年同様 山形中心の出荷。山形産は現時点では花芽分荷が早く、短い物より出荷が始まる見込み。</p> <p>FAJ 昨年に引き続き、東北冷涼の影響でやや前進傾向となる見込み。</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>世田谷花き</p> <p>第一花き</p>
バラ	群馬	雪害後の再建ハウスからの採花が徐々に増えだしているが、8月下旬からの日照不足等により芽立ちがやや少なく収量は大きく伸びない見込み。等級については、9月中旬から上位等級の割合が徐々に高くなっている。	<p>現状</p> <p>高冷地、西南暖地ともに、8月中旬以降の猛暑を受け、例年より等級がワンランク低い状況。高冷地の宮城でも非常に短い。販売面ではシルバーウィークに大型の連休があり、プライダル需要によって非常に活発な取引となる。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 愛知県、静岡県の商品のボリュームが大きくなり、丈も通常に戻る。取引は10日の大安を中心にプライダルの引き合い多く、活発になる見込み。入荷量は国産は昨年並み。輸入は増加傾向。</p> <p>FAJ 前月に引き続き、プライダル関係を中心とした販売となるだろう。</p> <p>東日本板橋花き 気温も落ち着き、品質的には上がってくるがプライダル需要等で引き合いが強くなる。</p> <p>世田谷花き 潤沢に入荷が見込める。各方面の需要に期待。</p> <p>第一花き</p>
	山梨	生育は順調、昨年と同様に推移している。	

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
小菊	秋田	彼岸向けは生育の遅れがみられたものの、需要期に順調に増量した。サビが散見されており、出荷への影響が懸念されている。増反を図っている産地もあるため、出荷量は増加する見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 曇天など天候不順で生育は全体的にやや遅れ気味。彼岸需要に向けては下位等級と一部色目で需要に対して供給量が少なめの展開。需要期明けに関しても色目によって数量纏まる。
	沖縄	台風の影響もなく生育は順調に推移している。本格的には11月中旬から増加してくる見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 上旬は露地産地中心に数量纏まるも、中下旬に掛けてはやや不安定な入荷量となる。大きな需要は無いものの、中旬以降は、不安定な入荷量に応じた引き合いとなる。 FAJ 東北の各産地でほぼ出荷終了し、関東・奈良を中心とした出荷に移行。 東日本板橋花き 特に動き鈍い、下旬より秋期系品種も出回る見込み 世田谷花き 入荷は減ってくるが、需要も減る為、単価も落ちつか。 第一花き
アルストロメリア	北海道	霜刈り時期も終わり、気温も低下していくため、徐々に出荷量は増加する見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 低温、曇天が続いたことから愛知、長野、北海道と生育が鈍く、出荷数量は変わらず。業務中心の引き合いとなり、各色高値で推移した。
			<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 夜温も下がってくることから、花立ちも増え始め上位等級中心に増加してくる見込み。愛知、長野、山形が中心となり、茨城、福島からの出荷も始まる。 380,000本 @85 FAJ 数量増加傾向。引き続き東需要を中心に安定した販売となるだろう。 東日本板橋花き 品質も良くなり、数量も増加してくるが業務需要等で引き合い強く高値推移。 世田谷花き 長野の本格出荷が開始。増量の見込み。 第一花き
スターチス	北海道(シヌアータ)	天候に左右されながらの育成となる。出荷も終盤戦となり、降霜により花きハウス後片づけ者も増え、出荷数量減少の見込み。(大半の生産者は加温ハウスで栽培していないため)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> シヌアータは彼岸分の作付減の中、受注が昨年以上の状況となり、納品が厳しい状況となった。販売面ではほぼ注文対応のみの状況。ハイブリットについても下位等級の注文多く、各等級引き合い強い状況。彼岸需要中心の引き合い、彼岸後は品薄によりやや高い単価での推移となった。
	北海道(シネンシス)	順調に出荷される見込みであるが、2番花以降の出荷が大半となり、短い規格品の割合が高くなる。出荷も終盤戦となり、降霜により生産者はハウス後片付けを行っている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 高冷地が徐々に終盤となり、暖地の出荷も纏まらず、数量面で厳しい状況が続く。価格面では数量が多くない分、安定した単価で推移する見込み。 FAJ 北海道産の出荷はほぼ終盤。徐々に和歌山県産との切り替えとなる見込み。 東日本板橋花き 秋系の品種がなく、短い物が中心になってくる。シヌアータ@80~30。HB @200~50。 世田谷花き 入荷は少なく、Mクラス中心の入荷。M@40~。 第一花き